

DIRECCION:  
USPALLATA 981  
U. T. 28-7051, B. O.

FRANQUEO PAGADO  
CORREO ARGENTINO  
TARIFA REDUCIDA  
CONCESION 718

**大阪商船會社指定**  
三等乗船切符仲次所  
大阪商船會社船客御送迎に就  
ては懇切迅速に御便宜を御取計  
申可候間御達意なく下記へ  
御用命賜度候

**船舶御用商**  
森川塩澤商店  
PASSEO COLON 470  
U. T. 33-4171  
U. T. 33-4808

OSAKA SHOSEN KAISHA  
Av. Roque Saenz Peña 616 U. T. 33, AVENIDA 1051 - 1052 - 1053 - 3565  
PISO COOPERATIVA CENTRAL 2047  
BUENOS AIRES

●北米パナマ線由日本行(一年十四回) 概算まで 四十七日 (A型) 五九のすあし十九日  
●アフリカ線由日本行(毎月一回) 門司まで 六十日 あより九あより九あより九あより九  
●南米線由日本行(毎月一回) 門司まで 六十日 あより九あより九あより九あより九

**乗船運賃**

船種	日本	日本	日本
A型	米貨 四五〇(洋) 三三(洋) 一五七(洋)	米貨 四三〇(洋) 三三(洋) 一五七(洋)	米貨 四一〇(洋) 三三(洋) 一五七(洋)
B型	全 四〇九(洋) 三三(洋) 一四三(洋)	全 三九〇(洋) 三三(洋) 一四三(洋)	全 三七二(洋) 三三(洋) 一四三(洋)
南米線	全 三三(洋) 三三(洋) 一四三(洋)	全 三三(洋) 三三(洋) 一四三(洋)	全 三三(洋) 三三(洋) 一四三(洋)

●小兒運賃 旅券記載生年月に依り満十二歳未満「半額」、満七歳未満「四分  
ノ一」満三才未満無賃、満四才以上亞細亞生れの方は「亞細亞旅券」必要  
●乗船支拂 日本行運賃は全部米貨支拂でも、一等は乗船切符買求め當日の  
換算率、三等は本船入港當日の換算率(何れも自由市場率)に依り亞貨にて  
支拂ひ願ひます。一等は定額運賃(割)の出國税が掛ります。(二等は無税)  
●歸國御手續 旅券面に日本領事の査証が要ります。三等客は乗船前乗船支  
の健康診断を受け下さい。切符は本船入港當日から出帆前日迄發賣  
●日本より御呼寄の便法當地にて乗船支拂支拂あれば乗船支拂引換証書上ま  
す。但し移民局發給入國許可証及日本領事館發給呼寄証明書持参下さい  
●鐵道省乗車券發行 日本第一港から本船切符の上陸港迄鐵道省汽車乗換  
の協合船便の代りに乗車券贈呈  
●弊社内航線切符發行 弊社内航線寄港地を目的とする、場合等内航線切  
符贈呈(但し沖繩ハ參等五割引)

**大阪商船**

**亞細亞丁時報**

DIARIO JAPONES  
Director: T. MIDZUNO  
Redacción: USPALLATA 981  
U. T. 23, Buen Orden 7051  
BUENOS AIRES

TARIFA DE SUBSCRIPCION  
Un mes ..... \$ 2.-  
Tres meses ..... " 6.-  
Seis meses ..... " 12.-  
Un año ..... " 24.-

**YAMASHITA LINE**  
FAR EAST-NEW YORK-SOUTH AMERICA SERVICE  
AGENT  
**CHADWICK, WEIR & Cía.**  
25 DE MAYO 516 U. T. 31-0026-29

**"K" LINE**  
KAWASAKI KISEN KAISHA Ltd.  
K O B E, J A P A N  
Representantes  
**J. E. TURNER & Co. S. A.**  
RECONQUISTA 325 U. T. 31-3491-3

**キリスト教青年ホーム**  
ペンシラン 定期又は一時的  
聖書の研究 毎土曜日午後八  
時より御來合自由  
郵便物取次 奉仕致します  
**守屋保吉**  
Caseros 1983  
U. T. 23-9872

**Semillería EL COLONO**  
ABONOS :: HORMIGUICIDAS :: INSECTICIDAS  
IMPLEMENTOS AGRICOLAS  
SEMILLAS Y PLANTAS  
**J. S. GAGO**  
IMPORTACION DE SEMILLAS  
EN GENERAL  
HERRAMIENTAS PARA JARDINES  
GENERAL HORNOS 58  
U. T. 23 BUEN ORDEN 7101  
BUENOS AIRES  
PIDA CATALOGO GENERAL

**川崎汽船西廻世界一周航路**  
▲横濱比律賓海峽植民地印度及紅海沿岸諸  
港之運河經由加奈隆北米伯利爾亞爾爾丁  
▲亞爾爾丁伯利爾爾巴奈馬運河經由太平洋  
岸諸港・横濱

**優秀船八隻就航**  
日本向け貨物迅速丁寧に取扱ひ致します  
**川崎汽船株式會社**

TALLER  
MECANICO

de G. GONZALEZ

修繕其他  
プランナーの  
カルデラの  
繕其他

SAN JOSE 220  
U. T. 38 - 5923

時計修繕  
電話で御一報次第参上致します  
市内カピトルド街一七七八  
電話(五二)〇九三三  
守屋利夫

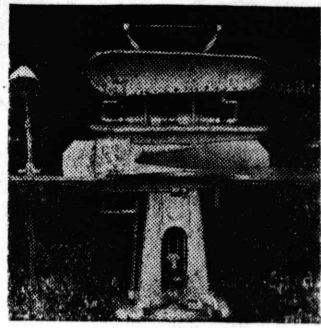
CABILDO 1178  
U. T. 52 - 0933

齊藤染色工場

設備完全  
仕事入念

邦人間唯一の  
染色工場

BELGRANO 3061  
U. T. 45 - LORIA 5442



新案  
T.B.P. 印刷機  
カルデーセント  
リノガ・クエーデ  
のプランナー機  
製造販賣修繕  
高橋秀雄

Av. La Plata 1416

U. T. 60 - 9421

写真師 佐藤貞則  
自宅出張撮影  
複寫引伸し  
如何に寫眞でも御引受け致す

SALTA 158  
U. T. 37-3704

TOYOKEN

25 DE MAYO 356

U. T. 31 - 0739

東洋軒  
料理部  
純日本料理  
折詰弁当  
井物一切類  
畫食  
配達致し  
相変らず  
市引立を

Masajista Japonés

SEGUOLA 1992-6  
U. T. 67-4591

日本式マッサージ鍼灸  
リウマチス、神経痛、呼吸器病、  
胃腸病その他一切の疾病、幼少  
日本膏薬は西坂商店で  
取次致してゐます  
山田忠重

GRAN PREMIO EXPOSICION DE LA  
INDUSTRIA ARGENTINA 1933-34

BILLARES BRUNSWICK  
BANDAS MONARCH  
ULTIMA NOVEDAD "SNOOKER"

Solicite informes



Cía. Brunswick Sudamericana S. A.

1894 - CANGALLO - 1900  
U. T. 47, Cuyo 3577 - Buenos Aires

MATSUYA HOTEL

TACUARI 580  
U. T. 34 - 1344

親切丁寧  
顧客本意  
浴室完備  
まつや旅館  
料理佳し、井物一切  
日本菓子製造致す  
の会食に應じます

だ井物一品料理仕出し  
すし、おぼろ、銀頭賣出し  
御婚札、御誕生の祝儀  
御注大に應じます  
松田清市

BOLIVAR 1556  
U. T. 23 - 4092

"PLATA BRAUN" MARCA REGISTRADA



カフエーバー  
レストラント用の  
メル製品の  
御用命は日本人間  
に絶大の信用ある  
ZANUS  
月賦拂の御注文に  
應じます

BERNARDO BRAUN e HIJO  
CORRIENTES 4349 U. T. 54, Darwin 4111

ALMACEN  
NISHISAKA

AUSTRALIA 1101  
U. T. 21-2915

醤油味噌  
澤庵香物 製造販賣  
日本食料品輸入販賣  
車中万應油  
値段勉強配達迅速  
西坂實太商店

Ernesto Coco

15 DE NOVIEMBRE 2335  
U. T. 23 - 2835

ケロセン廉賣  
永年日本人派酒店  
並に御家庭の  
御職員を蒙つて居ります

領事館銀行船倉社と近く  
御乗船御下船の便よし  
御下宿  
御旅館  
地方より出武の二即ち是非御参り願います  
昭和館

25 DE MAYO 330  
U. T. 31 - 5145  
BUENOS AIRES

"KEROGAS"

Ing. F. STUCKLER

U. T. 51-3252 PACHECO 3260

最新型ケアドロレス及び  
シンクスア・プレッショ  
製作販賣  
諸種ケアドロル修繕・部分品  
販賣・日本人間にも多数顧客  
在りし仕事は入念迅速電話  
で御一報次第至急参上致します

TALLER GRAFICO

NIPPON

SANTIAGO DEL ESTERO 975

U. T. 23 - 7864

刷印版活文西  
堂ニポツニ  
種各他其、刺名前封等便  
寸寸上取命用御拘不、少多  
総 川 北

### 日英海關協定の成立に 國府狼敗支那新聞毒づく

## 英國の態度に 支那憤懣

(上海六日)日英海關協定の成立は漢口の國民政府に重大衝動を與へ、今更下り狼狽の色を呈せしものあり。五日の國民政府新聞紙「武漢日報」及び共產黨機關紙「新華日報」は夫々該問題に批評を加へ、武漢日報は「英國は今今の協定により實質上は於て侵害者を援助したるものと見る」と述べ、又「新華日報」は「英人は其の在華投資を保護するにのみ注意し、日本の有する米米の對支貿易切斷の野望を見落したる」とし、中國政府は此の協定の非難を憤懣の意を發表してゐる。

### 上海々関接収に關する 維新政府の當局談

上海海關接収に關し維新政府スホークスマンは記者に「維新政府に於ては日英兩國の合辦の海關田滿に於ては、五月六日午前十時海關監督よりローノードの對し同式を上海海關局長に任命し、爾今上海々関の事務は概して一切、維新政府の手に歸すべき旨を甲斐し、ローノードは此の從ふべき旨を答へ、或いは右の基つて取敢て實行を要するに三の事項のつぎ夫々必要ある手續を施し、此のよつて上海々関の接収を完了し、

**外債** 等の支払に關しては、維新政府は成立當時聲明した通り、外國の支那の

(新京六日)最近幾度かする種々懸念を無言のうちに示して東赤軍の國境侵犯並に同軍の對し五日朝鮮軍はソ聯當局の政策的存案行爲がある旨を、朝鮮軍の態度に全幅的の信任は、一にソ聯政府に歸せらるべきであらうと云ふのである。

### 我々通州上陸部隊臨城を抜き 江蘇省北部の要衝阜寧に迫る

(上海五日)通州上陸以來北進を続けてゐる津浦線各部隊は臨城に於て約七十の敵を蹴散らし、四日早朝射陽河左岸に到着、更に敵の砲火を物とせしめ、五日未明敵射陽河を渡り、江蘇省北部の要衝阜寧を度々敵軍の前方に望んでゐる。

### 我軍郟城を占領、頑強なる敵陣爆撃

(北京六日)我が〇〇部隊は四日郟城附近の〇〇に於て頑強に抵抗を續けてゐた約六十の敵隊を野戦、強力的打撃を與へ、九日神廟附近に完全な攻撃し、(〇〇六日)我が高橋の部隊は六日朝陽西面南方の對上第一帯に敵陣する頑強なる重要陣地を爆撃、多大の被害を與へる。

### 粵兵を細くあつた蔣介石 珠數を待つ手に敵持たせ

### 防さぬ追つて戦地へ追ひやる

(上海六日)蔣介石は、對し陸軍とあつて粵兵と土自らの守るに足る優秀、民軍の兩編成を以て、兵を片づければ、日本を弄して兵力の増強を計つて

最近外電の報ずる所によると、愈々最後の処まで午を延ばし、佛にはへる防さぬ追つて、佛にひり出さるゝことになり、國府の臨時首都なる重慶では、佛兵の数は民軍の一大隊を編成する程である。近く比連朝タニ回に互つて軍事教練を施し、珠數を待つ手に敵軍陣地は、前線に追ひやることである。

### 事変をぬたに一儲け 奧地行の貨物輸送で 暴利貪る宋一家

(香港六日)海軍航空隊の連日に亘る空襲により粵漢、広九兩線は幾んどつゞつて停電、奥地への軍需品輸送は最近愈々困難となり、粵漢鐵路及び交通部は貨物輸送の困難を調整と破壊線路並に津梁の修復に懸命を盡してゐる。國民政府は最近海軍の軍需品を輸送する貨物に對し、商民に代つて

### 保衛

左の如きことを決定、その保衛資金として十萬磅を支出し、宋子文一家が主宰する中央信託公司に託した。斯くて表面一般商民の利益を擁護するが如く見せかけ、其の實は同公司を以て事變上港口向け貨物輸送の一切を細心、暴利を貪りし、一般商

**恐嚇的** とあつて、而して商民は同公司在經由せざれば、一物も貨物輸送の出來なれば、一、蔣政権と一連の同公司是一般商民

<p>五月十日入港 全二十日出帆 五月廿三日入港 全廿九日出帆</p> <p>大阪商船</p>	<p>CORNEJO KÖSTER MEDICO CIRUJANO DE HOSPITAL RAMOS MEJIA AV. DE MAYO, 1° PISO D. U.T. 37-2239 (DE 17 A 20 HORAS)</p> <p>皮膚病 淋病 梅毒 心臓病 胃腸病 小兒科 婦科</p>	<p>コステル内外科醫院 治療料費用低廉</p>
---	---	------------------------------



### 三二六事件犯人隠蔽罪に問はれた 久原房之助氏(完逸相)に無罪の判決

(東京六日)三二六事件に連座し、千尋監獄に収容された久原房之助氏(完逸相)に、隠蔽罪に問はれたが、東京地裁は、久原氏が三二六事件の発生に何ら関係も持たなかったと認め、無罪の判決を下した。久原氏は、判決後、東京地裁に控訴を申し立てた。

### 駐日独逸大使帰國 日朝東京を出発した

(東京六日)オット駐日独逸大使は、帰國のため、六日朝東京を出発した。大使は、東京滞在中、日朝関係の改善を期して、日朝両国間の友好関係を促進するに努めた。大使は、東京滞在中、日朝両国間の友好関係を促進するに努めた。

### 北支用発会社の總裁 郷男就任即答を避く

(東京六日)北支用発会社の總裁に、郷男が就任した。郷男は、北支用発会社の總裁に就任し、北支用発会社の業務を推進するに努むる。郷男は、北支用発会社の業務を推進するに努むる。

### 二総統歡迎大艦艦式 伊太利海軍の精銳 二百餘隻がぶらり

(ナポリ五日)イタリアの総統ベニト・ムッソリーニは、ナポリに到着した。イタリアの海軍は、総統の到着を歓迎するために、大艦艦式を行った。イタリアの海軍は、総統の到着を歓迎するために、大艦艦式を行った。

### トール船乗組員募集 甲種海員 候補者募集

トール船乗組員募集。甲種海員 候補者募集。トール船乗組員募集。甲種海員 候補者募集。トール船乗組員募集。甲種海員 候補者募集。

### 南米水産株式会社 市内アエナ街一五九七

南米水産株式会社。市内アエナ街一五九七。南米水産株式会社。市内アエナ街一五九七。南米水産株式会社。市内アエナ街一五九七。

### 英米三國 通貨協定は存続

(倫敦五日)英米三國は、通貨協定を存続させることに合意した。英米三國は、通貨協定を存続させることに合意した。英米三國は、通貨協定を存続させることに合意した。

### 仏蘭西政府 フラン貨切下に決定

(パリ五日)フランス政府は、フラン貨を切り下げることに決定した。フランス政府は、フラン貨を切り下げることに決定した。フランス政府は、フラン貨を切り下げることに決定した。

### 維持会員應募者芳名 第三回発表(五月五日)

維持会員應募者芳名。第三回発表(五月五日)。維持会員應募者芳名。第三回発表(五月五日)。維持会員應募者芳名。第三回発表(五月五日)。

### 社団法人在日日本人会

社団法人在日日本人会。社団法人在日日本人会。社団法人在日日本人会。社団法人在日日本人会。

### 本戦の発火点チエコ

本戦の発火点チエコ。本戦の発火点チエコ。本戦の発火点チエコ。本戦の発火点チエコ。

### 一日一題

一日一題。一日一題。一日一題。一日一題。

### 夢科生

夢科生。夢科生。夢科生。夢科生。

### 夢科生

夢科生。夢科生。夢科生。夢科生。



# MEDICINAL NEWS

28 - Guipacha - 28

○ 淋病梅毒 治療代は全治後頂きます  
 ○ 肺結核新療法 月十ペソ以上の便あり  
 ○ 婦人科。電氣治療科  
 ○ X光線科 (各科専門医十名)  
 診察料三ペソ 時午前九時-十二時  
 同午後三時-八時  
 ○ 日曜祭日は午前中

東洋、科 醫學士 國分鉄藏  
 左記に於て齒科治療の  
 御相談に應じます  
 ドクトルエドアルド・キンタニア・ニヤ齒科医院  
 市内エドラス街六九二、四階  
 デパートメントN 電話三三一三三〇

ホフマン式フランチャヤ機  
 並にカルテラの修繕機付  
 一切廉價に引受けます  
 ホフマン社  
 指定機械師 トリビオ・ゴメス  
 CHACABUCO 896 TELEFONO PARTICULAR  
 U. T. 23. B. ORDEN 4564  
 U. T. 34. DEFENSA 1192

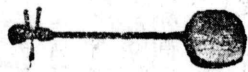
御旅館 双葉  
 御下宿 双葉  
 和洋食月極めに應じます  
 皆様の御愛顧を願ひます  
 尾崎幸千代  
 USPALLATA 812  
 U. T. 23 (B. Orden) 5735

齒科医療の  
 御相談に應じます  
 日本齒科 醫學士 山本実雄  
 應診時間 午前八時-午後十時  
 市エントレ・リオス街九七三  
 電話三三一三三〇、五四二

日本産敷 文化住宅 建築  
 家具製造修理其他の御用命を願ひ  
 大工指物師 山本 玄  
 Av. del TRAJAR 4817  
 U. T. 741 (Florida) 3150

ラキリアム・ウヰン  
 ソンネベルド商会  
 代理人  
 ヴィセンテ  
 シアリエロ  
 和 優良球根  
 各種販賣  
 RIVADAVIA 5871  
 U. T. 63-6962

JUGUETERIA  
**TORRO**  
 SARMIENTO 540  
 U. T. 34 - Defensa, 1687



琉球三味線教授  
 (日) 土曜日午後二時より  
 (割) 初等科  
 (日) 日曜日中等科  
 安里亀榮  
 U. T. 23. B. Orden 8424  
 MONDOX 1646

玩具卸買求むは  
 廉價、在庫品豊富の  
**トロロ玩具店**で  
 日本製玩具あり  
 御申込次第型録送呈

SEMILLERIA  
**Juan Calé & Cía.**

CASA MATRIZ  
 123 - PUEYREDON - 123  
 U. T. 47, CUYO 0065 y CUYO 0066  
 COOP. TEL. 1137, OESTE  
 Sucursal N.º 1: CORRIENTES 3175  
 U. T. 62, Mitre 1954-C T. 323, Oeste  
 Sucursal N.º 2: RIVADAVIA 2425

SASTRERIA "TORRO"  
 SARMIENTO 654  
 U. T. 35, Libertad 1392



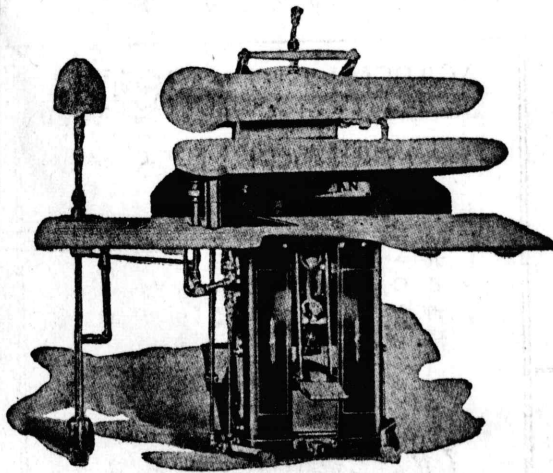
品買本位  
 仕立入念  
 八十五ペソ  
 より各種  
**トロロ**  
**高等**  
**洋服店**  
 この広告切抜き  
 御持参の方には  
 一割引致します

**Franz y Fritz**

DANCING  
**348 PARANA 350**

一階に新設致しました美しい  
 冬の花園の御披露致します  
 フリエテは毎日午後六時半より  
 小ルンチ附コペティン一ペソ  
 樂團は有名なカナロのオルケスタ  
 夜の部 西班牙及び各國の藝術の粹を  
 集めたフリエテを二回開催  
**百名の麗人ダンサー!!**  
**卅名の藝術家登場!!**  
 日本人のモーションがサーピス致します

式ンマフオ舊新  
**買安大機ヤチンラブ**



**SALTA 431**  
 U. T. 38, Mayo 0999

機ンマフオ るな飲無全完の古中  
 すまし致買販てに拂支件條好安格  
 (可もてに紙手の文本文日は文註御のりよ方地)

# CLINICA MEDICA CANGALLO

CALLE CANGALLO 1542

Atendida personalmente por su Director

**Dr. A. GODEL**

Médico Cirujano

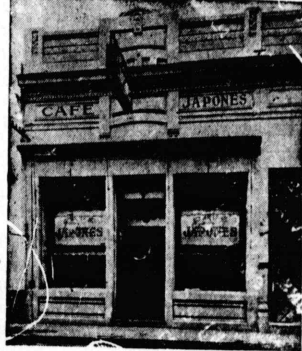
**最新式獨乙療法**  
 淋病—根治療法  
 梅毒—六〇六号、九一四号  
 婦人病、心臓、胃腸、各科専門  
 肺腎臟神經系統  
 ◎日本人方には初診無料  
 X光線、デアアルミ、血液検査  
 診察日：自午前九時 至 午後三時 至 九時  
 日曜祭日は午前中

無痛歯抜 ニベソ  
 セメント充填五ベソ  
 金冠 拾五ベソ  
 金入歯 拾五ベソ  
 総入歯 六拾五ベソ  
 診察時間  
 午前九時より  
 午後八時まで

**DR. E. BULJEVICH**  
 BDO. DE IRIGOYEN 1404  
 U. T. 23 - (B. O.) 0279

# CAFE JAPONES

de K. UCHINO  
 LAS HERAS 667 TUCUMAN



ツクマン市  
 内野喜吉

# GRAN TALLER "EL ASAHI"

de MIYAZONO Hnos.  
 Casa Matriz:  
 CHARCAS 1873 - U. T. 44, JUNCAL 4366  
 Sucursales:  
 BME. MITRE 2511 - U. T. 47, CUYO 7159  
 RIVADAVIA 5202 - U. T. 60, Caballito 4738  
 BUENOS AIRES  
 CONSTITUCION 148 - U. T. S. Fernando 46  
 SAN FERNANDO, (F. C. C. A.)

# KEROFIX

DEL Sr. ALEMAN (MARTIN)  
**M. SEITZ & Cia.**

Talleres:  
 CHARCAS 4511  
 U. T. 71-9998

プリンチヤ機  
 カルデー用のケマ  
 ドレスステゲロセン  
 製作販売、修繕取  
 付交換引受け。  
 当方はカ、サ、ボ、ル  
 カン以来御馴染の  
 独り人で日本人間に  
 数多の顧客を有し  
 仕事は入念迅速、電  
 話で御一報、改、至  
 急参上致します。

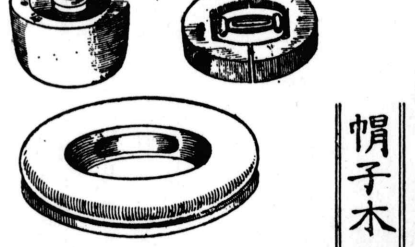
# Doctor Julio Lutzki

A L S I N A 2 4 7 4  
 U. T. 47 - 5329

第一心臓肺臟喘息  
 呼吸器  
 診療時間  
 午後五時 至 八時  
 一、二、三、四、五、六、日、夜、診

# BUIS GORI Hnos.

LIMA 1029 U. T. 23-2897



**帽子木型製造工場**  
 チントリアの仕立の  
 上、下、手は型、型、思  
 に依ります。  
 仕事を上、手、に、さ、さ  
 には、良い型、を使、い、わ  
 け、は、り、ま、せ、ぬ。  
 弊工場は、マ、デ、ラ、ラ、ン、カ  
 マ、デ、ラ、コ、ロ、ラ、グ、アル、カ、ロ  
 一、本、型、等、流、行、型、の、あ  
 り、ゆ、り、型、を、最、高、の、市  
 價、で、供、給、し、最、高、の、市  
 價、で、注、文、に、も、應、じ、ま、す。

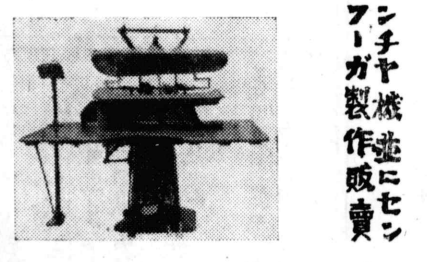
# CAFE Y CERVECERIA LA "SATUMA"

有水武二  
 久松純雄  
 竹内武義  
 加藤吉隆

General HORNOS 54  
 U. T. 23 - 0526 BUENOS AIRES

# FRANCISCO SANTERO

EX-MECANICOS Cia. HOFFMAN  
 Calle DANIEL 1438  
 U. T. 45-0294



プリンチヤ機、並にセン  
 リア、リ、ガ、製、作、販、賣

# かまぼこ

御注文は村武、  
 原料精選  
 味は良くて  
 値段は安い  
 御入用の節は電話で

Marcos Paz 1941 U. T. 67-4833 FLORESTA

# Casa MALIS

DEFENSA 717  
 U. T. (33) 4382

カ、サ、ボ、ル、店  
 就、労、用、衣、類、の  
 御、用、命、は、弊、店、へ

サ、コ、ラ、ン、シ、コ、ミ、ン、ソ、  
 黒、チ、ヤ、レ、コ、ミ、ン、サ、  
 黒、サ、コ、ハ、ン、ソ、  
 上、等、モ、キ、ン、ソ、

# GRAN MERCERIA Y BAZAR

Casa fundada en el año 1923  
 PRIMERA Y UNICA CASA JAPONESA  
 Últimas Novedades Para la Moda  
 Creaciones en Artículos Japoneses

SE ATIENDEN PEDIDOS TELEFONICOS

優良品  
 廉価販賣  
 呉服、大物、小間物  
 雑貨、最新流行婦  
 人用品及び御家庭  
 用品一切小賣店  
 同胞に限り割引  
 保険事務一切  
 公認代理人  
**林甚次郎**

CARLOS PELLEGRINI 1153  
 U. T. 41, Plaza 1306

# Máquinas Hoffman

BELGRANO 525  
 U. T. 34 - 1497  
 BUENOS AIRES

オ、フ、マ、ン、式、プ、リ、ン、チ、ヤ、機、及  
 同、会、社、製、附、屈、品、販、賣、店、は、武  
 市、に、於、て、は、当、店、一、軒、の、み、で、す

# TALLER MECANICO A. MENDEZ

CALLE VERA 737 - U. T. DARWIN 1108

カルホン、オ、フ、タ、又、ロ、カ、ス、機、  
 靴、履、機、(子、連、し、又、は、手、で、も、可、)  
 其、他、洗、滌、機、の、修、繕、に、應、ず



## Mala voluntad o falta de sentido común

Las dificultades que oponen ciertas potencias al procedimiento del Japón en Shanghai y otras regiones de China, que actualmente están ocupadas por las tropas nipones, se han debido y se deben a la mala voluntad o falta de sentido común.

Una ciudad o un territorio ocupado por las fuerzas enemigas del país a que pertenece esa ciudad o territorio, mientras duren las hostilidades permanecen bajo el dominio del ocupante, según queda reconocido por el derecho internacional en tiempo de guerra, y los neutrales deben sujetarse a ese hecho, sin perjuicio del resultado final que dependerá del convenio que ponga término a ese estado de cosas.

Las informaciones que llegan de China anuncian que Gran Bretaña y Japón llegaron a un acuerdo acerca de las cuestiones de aduana en Shanghai y otros puertos ocupados por Japón, lo que indica que, por fin, se ha dado cuenta aquélla de la necesidad de reconocer el derecho, de hecho, de que alega el Japón. Gran Bretaña, como otros países, debieron aceptar inmediatamente la situación de hecho, máxime cuando el Japón les aseguró, cortesmente, que sus derechos en China serían respetados.

Pero, la parte importante de este acuerdo concedido por el Japón a una nación amiga, que las informaciones callan, está en que aquél ha tenido la paciencia de escuchar sinrazones de esas potencias que, alegando sus derechos contra China, han pretendido imponerse al Japón que no tiene por qué estar midiendo los intereses ajenos cuando está en lucha en defensa propia contra el bandolerismo que provocó la situación actual. Los países neutrales debieron retirarse del sitio peligroso y no inmiscuirse en la lucha a favor de un bando en contra del otro, como lo han hecho y siguen haciéndolo. Solamente la opinión sana de los Estados Unidos reclamó de su gobierno que se retirara hasta sus tropas de guarnición del territorio en que se hallan en lucha chinos y japoneses, para evitar complicaciones. Esto es sentido común y lealtad hacia las naciones amigas.

La causa original de estos hechos anormales están en la condición caótica de China que, como lo denunció el Japón en 1932, no es un Estado reconocible como dueño de su soberanía: China es un país considerado todavía como semi-civilizado, con imposición de derechos de extraterritorialidad por las potencias, incapacitada para ejercer su plena soberanía.

Por eso, el Japón quiere proporcionarle a China, la paz interna, para que ponga sus cosas en orden, y para que adelante, a fin de colocarse en situación de igualdad con las demás naciones civilizadas.

Las potencias europeas que prefieren seguir obrando como hasta ahora, para mantenerla dominada siempre, con promesas de ayuda directa

o indirecta, fomentan la belicosidad china, en vez de aconsejarla para que siga el camino señalado por el Japón.

Mas, la hora del Japón ha sonado: Japón está en acción para poner el orden en el Extremo Oriente, que sin esa base la humanidad no puede obtener la paz justa a que tienen derecho todos los hombres sobre la tierra.

No es ninguna jaquencia por parte del Japón. Es simplemente la valentía del Japón que se atreve a poner en ejecución lo que es justo: lo que “las potencias” han tenido en sus labios por mucho tiempo, pero que no lo han puesto en práctica porque creyeron que ello perjudicaría sus intereses.

La actitud de las potencias europeas en la circunstancia actual es idéntica a la de la aristocracia del viejo mundo antes de la revolución francesa, que no quiso reconocer el derecho del hombre para todo el pueblo. La vida internacional del siglo XX reclama, ante todo y sobre todo, ese reconocimiento y acatamiento por todas las naciones, porque sin justicia y con derechos desiguales no es posible el progreso general del mundo.

Es sumamente seria la empresa del Japón ante el mundo. Su misión es la más noble que pueblo alguno haya asumido en la historia, pero el Japón está preparado, felizmente, y cimentará con sus esfuerzos y sacrificios, la base de la felicidad humana.

## Origen y Caracter del Idioma Japonés

Por el R. P. JUAN CALVO

(Autor del Diccionario Japonés-Español)

ORIGEN DEL JAPONÉS. — Siendo indudable que los japoneses no son los aborígenes del hermoso país que ocupan, ¿cuál es su origen? ¿de dónde proceden? Ni la etnología ni la historia nos pueden dar todavía una respuesta cierta y definitiva. Lo más probable es, que vinieron del Oeste; pero ¿proceden de Manchuria y Corea, o más bien, son malayos y siameses? Las dos suposiciones son probables, y no faltan indicios etnológicos que lo corroboren; sin embargo, parece más cierto que la avalancha principal de los invasores procede del Noroeste. De esta incertidumbre viene también la dificultad de clasificar la lengua japonesa. La filología no ha llegado aún a resultados ciertos y seguros; pero su semejanza con el coreano y las lenguas mongoles dan motivos más que suficientes para colocarla entre el grupo de los idiomas altaicos.

SU CARACTER. — Sea cualquiera su origen, la lengua japonesa es aglutinante, es decir, que para expresar una idea compleja tiende a juntar muchas palabras y partículas distintas.

El japonés, en su forma actual, no es, ni mucho menos, una lengua homogénea, a la que se pueda atribuir un origen único. Tenemos en primer lugar la lengua primitiva indígena, llamada **yamato kotoba** o **wago** bastante pobre y desprovista casi totalmente de nombres abstractos. Viene después la infiltración lenta de la lengua china desde el siglo tercero de nuestra era, a la que siguió forzosamente su escritura. ¿Tenían ya entonces los ja-

poneses una escritura propia adaptada al genio de su lengua? No lo sabemos, y si la tenían, no ha quedado vestigio ninguno de ella. La lengua china ha enriquecido de una manera prodigiosa la lengua japonesa; pero los japoneses al adoptar su escritura, se hicieron por las ideas esclavos de la China durante largos siglos. Hoy mismo no pueden prescindir de ella: para expresar los términos técnicos de las ciencias tienen necesariamente que acudir a ella, componiendo las palabras con los ideogramas chinos. Si quitásemos este elemento prestado, la lengua japonesa, hoy tan rica y sonora, se convertiría en una lengua pobre e insulsa, y casi podría decirse que desaparecería como lengua.

Sabido es que los caracteres chinos tienen un valor doble, el fonético y el ideográfico. Los japoneses al querer escribir su lengua polisilábica con los caracteres chinos buscaron dos o más homófonos, prescindiendo de su valor ideográfico. De ahí que una misma palabra japonesa la escriban su capricho con diferentes caracteres chinos que tenían el mismo sonido que las sílabas de que se componía, lo que originaba bastante confusión. Así vemos, por ejemplo, ue la palabra japonesa **iro**, color, es bisílaba, **i** y **ro**; buscaron pues, entre los caracteres chinos dos sonidos idénticos y escribieron , pudiéndose escribir fonéticamente de otros muchos modos. Pero bien pronto los literatos versados en la lectura de los libros chinos se dieron cuenta le que esta idea de color se podía escribir más sencillamente con el ideograma

, lo que sucedía más o menos con todas las ideas. Por eso la introducción del ideograma chino en su valor ideográfico vino a ser imprescindible en la lengua japonesa. Si esto la enriqueció y continúa enriqueciéndola de una manera prodigiosa, ha aumentado también sus dificultades.

En efecto: la adopción del ideógrafo chino llevó consigo la adopción de su sonido, que no es uniforme. Así tenemos la pronunciación llamada **kan-on**, del tiempo de la dinastía de los **Han**, y el **go-on**, del país de **Go. &**. De aquí procede las muchas maneras de expresar verbalmente la misma idea, y el mucho tiempo que se pierde para aprender tantos miles de caracteres. Veamos algunos ejemplos:

pa. jap.	carácter	go-on	kan-on
Color	<b>iro</b>	<b>shiki</b>	<b>shoku</b>
hombre	<b>hito</b>	<b>nin</b>	<b>jin</b>
sol	<b>hi</b>	<b>nichi</b>	<b>jitsu</b>
luna, mes	<b>tsuki</b>	<b>gwatsu</b>	<b>getsu</b>

Estas palabras chinas japonizadas son las que constituyen la lengua llamada “Kango” que los japoneses no escriben según el orden de los chinos, sino según el orden del genio de su lengua, que es completamente diferente del nuestro. El sonido o pronunciación de estos caracteres al combinarse con otros en la formación de las palabras, no es libre, sino que está sujeta a ciertas reglas, o más bien, impuesto por el uso.

La introducción del **kango** en la lengua japonesa produjo la división de la lengua en escrita y hablada. La primera, llamada **bun**, se distingue notablemente de la segunda llamada **gen**, aunque se trabaja por su uniformación **gembun itchi**.

Incluya un crucero alrededor del mundo en sus próximas vacaciones

•

Cuando vaya usted a Europa, hágalo pasando por el Oriente

•

PASAJES MUY VENTAJOSOS

•

Para informes digírese a:

**Osaka Shosen Kaisha**

Diagonal Roque Sáenz Peña 616. - 2.º piso

**H. KATO**

Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería

HERRERA 2097 y 2111 U. T. 21-1841

# PAGINA DE ACTUALIDADES

## ACUERDO ANGLO-JAPONES SOBRE LAS ADUANAS CHINAS

Shanghai, 3. — Se ha llegado a un acuerdo entre Gran Bretaña y Japón, sobre el régimen de la aduana de Shanghai. Gran Bretaña, mantenía, antes del conflicto, el control sobre la mencionada aduana, como garantía de los empréstitos al gobierno chino. Esta intervención administrativa, considerada como atentaria a la soberanía en el concepto autonómico de Occidente, era común en China y fué implantado por Occidente, para mantener un control indirecto sobre China. Mediante el acuerdo anglo-japonés, sobre Shanghai, Japón, en reconocimiento a los tratados celebrados por China, seguirá garantizando los empréstitos contraídos por este país en Gran Bretaña, con las entradas de la aduana de Shanghai, que se destinarán al pago del servicio de las deudas.

## DERROTA DEFINITIVA DEL EJERCITO CHINO DE SHANTUNG

Pekin, 3. — La pérdida sufrida por el ejército chino en los campos del gran canal, fué considerable, fracasando en su intento de evitar que el ejército japonés penetrara a la provincia de Kiang-Su, ocasionando la derrota total y definitiva del ejército chino de Shantung.

Las bajas chinas se elevan a varias decenas de mil y los principales jefes y caudillos que han intervenido en la batalla han huído abandonando sus fuerzas. La propaganda de la victoria china en Taierchwang se debe al general Li-Tsung Yen quien hizo asegurar la confianza no solamente de Chiang-Kai-Shek sino también internacional, cuyo fracaso parece inevitable debido a la lucha entre los jefes militares y los caudillos chinos que se manifiestan como consecuencia inmediata de la creciente derrota del General Li-Tsung.

## PARTE OFICIAL DEL EJERCITO NIPON

Pekin, 3. — El Comando del Ejército Japonés comunicó lo siguiente:

La acción del ejército expedicionario desde mediados del mes de Marzo al principio de Abril, destruyó al ejército chino de la zona septentrional del gran canal a lo largo del F. C. Tiensing-Pukow. Desde entonces se dedica activa y exclusivamente a la pasificación y organización de los pueblos circunvecinos. El comandante Li-Tsung-Yen del ejército chino ha concentrado más de 20 divisiones del ejército al otro lado del citado canal, con la intención de realizar un movimiento del flanco para poder atacar al ejército japonés por su retaguardia. Adivinada esta intención del general Li-Tsung-Yen, el ejército japonés movió rápidamente, a mediados del mes de Abril, sus fuerzas contra el ejército chino derrotándolo en Hsing-Chow, Tang-Cheng y en Matow-Chen.

### ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 olo de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

**CAFE DE SANTOS "AGUILA"**

ES UN PRODUCTO SAINT.

## PAGINA JAPONESA DE "LA RAZON"

Como anunciáramos oportunamente, nuestro simpático colega "La Razón" publicó el día 29 de abril, en ocasión del cumpleaños de S. M. el Emperador, una página especialmente dedicada al Japón.

La página contiene: retratos de Sus Majestades los Emperadores del Japón, y de S. E. el señor Ministro del Japón en al Argentina; vistas del corazón de la ciudad de Tokio, el campo de deporte de los jardines exteriores del templo de Meiji, donde se celebrarán los juegos olímpicos en el año 1940; una japonesa en kimono, luciendo su gracia, y un mapa mundi japonés en donde hace resaltar la posición privilegiada que el Japón ocupa en la nueva era comercial del mundo, complementados con la reproducción de la fotografía que representan a los cadetes de la Frigata Sarmiento en su última visita al Imperio del Sol naciente.

Entre los materiales insertados, además de la nota editorial que contiene expresiones muy dignas del sentimiento cordial hacia el Japón, que es general en este país, notamos interesantes artículos que, en breve espacio, describen al Japón en todas sus fases.

Notamos, en efecto, los siguientes artículos: Comercio exterior del Japón, que contiene en sí las condiciones industriales del Imperio; La educación en el Japón; La Marina Mercante Japonesa; La XII Olimpiada de Tokio en 1940; Los ideales del Japón, por Albino Pugnalin, y Cordialidad Argentino-japonesa, por G. Yoshio Shinya.

Presentamos agradecidos nuestro reconocimiento a la Dirección de "La Razón" y al señor José María Caffaro Rossi, quien dirigió esa publicación.

## VISITA DEL MINISTRO WANG KO-MIN, DEL GOBIERNO DE PEKIN, AL JAPON

TOKIO, Mayo 5. — La visita del jefe del Gobierno del Norte de China y su entrevista con el Ministro de Marina, han producido visible satisfacción al pueblo japonés, porque traduce la coincidencia de punto de vista de ambos gobiernos para apreciar las responsabilidades de China y de Japón en Extremo Oriente y la necesidad de hermanar a los pueblos de Asia en un ideal continental común que sirva la gran causa de la civilización universal.

## RECEPCION EN LA LEGACION DEL JAPON

El jueves 5 del corriente se realizó la recepción ofrecida por el ministro del Japón, Dr. Iwataro Uchiyama y señora, en honor de los miembros del Poder Ejecutivo, altas autoridades nacionales, y un grupo de amistades personales.

## FRANCIA ANTE EL CONFLICTO CHINO-JAPONES

TOKIO, 5. — La actitud francesa ante el conflicto chino japonés se debe en gran parte a la lúgubre situación política europea. Francia cree que la prolongación de la guerra en el Oriente influye en la disminución de la potencialidad económica-militar de Japón, contribuyendo por lo tanto, a la seguridad de la Indochina Francesa. He aquí el porqué del envío francés en gran escala de armamentos con destino a China. El Embajador Francés en China ha entrevistado con el gobernador de Indochina Francesa con el objeto de facilitar el transporte de los armamentos al frente del combate, a través de este territorio.

## EN EL CONSEJO NACIONAL DE MUJERES CANTARON NIÑAS DE LA ESCUELA JAPONESA

Ayer, miércoles 4, en el Salón de Actos del Consejo de Mujeres de la República, donde se celebró una fiesta internacional organizada por la señorita Mercedes Moreno, Secretaria de la prestigiosa institución, y por intermedio del agente cultural, señor G. Yoshio Shinya, tomaron parte siete niñas de la Escuela Japonesa, dirigidas por el profesor Iwao Ito, quienes cantaron varias canciones de Cuna japonesas.

Fué verdaderamente una novedad en la sociedad porteña la presentación de niñas niponas ataviadas en sus kimonos auténticos y la habilidad con que entonaron sus canciones, que, justamente, merecieron los aplausos de la selecta concurrencia que llenaba el salón.

Estuvieron presentes, especialmente invitados: el secretario de la legación del Japón, señor S. Hosokawa en representación del señor ministro y señora de Hosokawa.

## JAPON HACE LA HISTORIA A LA LUZ DEL SOL

TOKIO, mayo 5. — El señor Kato, al ocuparse de la situación actual en Extremo Oriente, dice: Los corresponsales vinculados al ejército rojo que opera en China, transmite informaciones sobre supuestas victorias chinas. No nos interesa analizar las intenciones perseguidas con las versiones de victorias ganadas en el papel, pero nosotros manifestamos que la historia la hacemos de día y a la luz del sol. Nuestro ejército está en condiciones de controlar e impedir cualquier acción amenazadora para el normal desarrollo de nuestro Imperio.

## VICTORIA DE LA AVIACION NIPONA EN SHING-SU

PEKIN, 5. — La aviación militar japonesa ha atacado por sorpresa al ejército chino concentrado en la proximidad de Shing-Su en número de más de 10.000 soldados. Este ejército, que fué destruído totalmente, tenía por misión la recuperación de una importante fortaleza estratégica situada al N. del F. C. Lung-Hai, del que fué desalojado recientemente por el ejército expedicionario japonés.

## LOS CHINOS ENVENENAN LAS AGUAS POTABLES

PEKIN, 5. — Por diversas informaciones se sabe que la táctica adoptada por el Estado Mayor del General Chiang-Kai-Shek de la "lucha química", envenenando en lo posible todas las aguas potables de la zona del conflicto es decir, en la región austral de la provincia de Shantung, ha sido puesta en práctica.

## LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolifera - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

## La conducta del Nipón e Inglaterra

Por ESTEBAN ROLDAN OLIARTE.

Las conquistas, anexiones e intervenciones en Asia tenían por objeto, según el lenguaje oficial de Inglaterra, hacer partícipes a aquellos pueblos de la civilización, librarlos de la esclavitud y abrir puertos al comercio internacional. En realidad sólo ha practicado en gran escala el último de los enunciados pero a beneficio propio y en perjuicio, la mayoría de las veces, de la moralidad, de la civilización y de la misma libertad.

Desde que Inglaterra se introdujo en China a la paz siguió la revolución y a la unidad imperial el desorden liberal. De occidente las muchedumbres chinas solo conocen estos nombres: democracia y autodeterminación que no tienen más significado para ellos, y es lógico, que el derecho a conseguir por todos los medios su emancipación.

Inglaterra ha pecado gravemente contra el espíritu porque no solamente no llevó al Extremo Oriente principio civil alguno sino que mediante la corrupción y la fuerza ha destruido el orden autóctono. Y hoy, imposibilitada para sostener su hegemonía, recurre todavía a los trucos de su diplomacia intrigante para perpetuar la intranquilidad y fomentar las rivalidades nacionales de aquellos pueblos.

Contra el imperio civilizador de la España humanitaria y cristiana destacó el alud de sus corsarios con patente real; contra Francia y Holanda sus guerras de expansión y rapiña; contra Rusia en sus intentos de salida al mar las rivalidades balcánicas; contra Alemania por su predominio comercial el patriotismo francés y contra Oriente, el próximo y el lejano, el opio, la mentira y la represión, ha disminuido el standard de vida y el nivel de cultura de sus colonias, los ha brutalizado cruelmente y continúa despreciándolos.

Las impermeables minorías inglesas en los Dominios de explotación viven al margen de esas razas, ajenas a sus dolores y a sus miserias. Han levantado palacios para sus turistas, parques y deportes para sus administradores, zonas sanitarias para sus emigrantes y fortificaciones para remachar las cadenas de los esclavos. Unas cuantas ciudades modernizadas junto a las costas de los mares, a manera de reclamo espectacular para pisaverdes y viajeros de comercio. No penetra dentro porque la sensibilidad humana no resiste el espectáculo de ese hacimiento de miseria y de ignorancia. De esas bellas tierras humilladas inmisericordemente Europa sólo conoce la soberanía nominal de los rajahs que la Gran Bretaña asoció a sus expoliaciones y las condecoraciones rutilantes que constituyen el signo de su traición.

Inglaterra hoy predica la paz porque la guerra para ella representa la pérdida segura de las adquisiciones hechas por la guerra al través de terceros pueblos en discordia. Pero los desposeídos no se resignan ni los famélicos pueden aguardar el resultado del juicio final bíblico. De una parte toda la riqueza, del otro lado la pobreza. Este es el equilibrio que quiere perpetuar el "Foreign Office"; esta es la paz inglesa que predicen sus lords y sus tenderos. Pero no es la paz humana que necesita la comunidad internacional. La riqueza de los pueblos como la de los individuos no es propiedad absoluta sino usufructo legítimo solamente por el bien que produzca.

En su vida de relación internacional no busques un rasgo de nobleza ni un gesto de gallar-

día viril. Se nutre de las querellas interiores de los pueblos. El ejemplo bochornoso de su conducta en la guerra civil española es bastante para no recurrir a demostraciones anteriores. No le importan las ruinas y los crímenes más o menos políticos que allí se comente, le interesa perpetuar su dominio y a través de un Duque de Alba, aristócrata inglés con librea de lacayo hispano, como otrora se sirvió del intelectual Madariaga con disfraz de republicano, quiere sustraer a Italia de toda influencia en la península para compensarse a costa de sangre española de sus pérdidas en China. Y todavía con ese suave cinismo tan inglés sus oráculos diplomáticos afirman que no conocen el significado de la palabra "vendetta".

Contra quién? Acaso debemos gratitud por no habernos extremado a la manera de Gengis-Kahn? Pero los pueblos arruinados, esclavizados u oprimidos sí creen en el desquite que no es más que la aplicación de la justicia immanente a las colectividades que faltaron al honor.

Los pueblos, conscientes de esta hora de liquidación del ciclo liberal-capitalista que ha sido el de la hegemonía británica, reaccionan en Asia y en Europa contra Inglaterra por no haber ésta cumplido la misión que le asignó la Historia. Por su egoísmo brutal y salvaje, exento de toda elevación moral, contra el espíritu de Europa y Asia y los intereses de todo el mundo. No es una guerra de ideologías la que sigue sino de restauración del equilibrio político-económico y de la fraternidad internacional dentro de la específica y peculiar fisonomía y manera de ser de cada uno de los miembros de la humanidad.

China no le debe a Inglaterra más "beneficio" que el ardor que puso en la intensificación del comercio del opio y de su consumo; en la apropiación de sus mejores tierras y concesiones y en la protección de todos los bandidos-generales que fomentan la revuelta y encienden los conflictos.

Ante el trato que reciben los hindúes y otras razas sacrificadas del Asia opongo el que da el Nipón a las poblaciones de sus dominios. Su colonización no es a beneficio de administradores llegados de la metrópoli para jugar al tenis o de "compañías de Indias" para cazar coolies, sino para provecho integral de todos. El funcionario japonés es el primero en el trabajo y en el ejemplo. La elocuencia de los hechos prueba mucho más que la de los principios que no se aplican ni practican. Comencemos por

### FORMOSA

Fui a Taihoku para visitar a los beneméritos dominicos españoles. Al pasar por frente de la Cámara de Comercio de la capital, me fijé en un letrero que dice: "Aquí donde viven hoy doscientos treinta mil ciudadanos, en donde reina la riqueza, el progreso y el bienestar, anteriormente tenían su morada la inseguridad, el miedo y la superstición".

No es reclamo. Se puede recorrer la isla y la actual Taiwan parece bella. Formosa la bautiza-

ron los portugueses que sólo entrevieron su perfil — fascinante y segura. De nido de piratas se ha convertido en una de las rutas turísticas más completas y típicas del orbe; de la jungla con sus salvajes (las terribles tribus de los "cortadores de cabezas humanas") ha surgido jardín polícromo de cultivos y un centro de convivencia internacional.

La población se compone de unos 4.500.000 habitantes de los cuales 200.000 aborígenes, de raza malasia, casi totalmente vencidos por la civilización. De vez en cuando, algunos insumidos de la selva en un retorno instintivo al salvajismo ancestral, efectúan razzias en los alrededores de su zona con el fin de decapitar a algún humano. La autoridad japonesa que no ha practicado la caza de los indígenas, como lo hicieron con sus pieles rojas los yanquis, los castiga severamente.

En los primeros tiempos de la civilización las zonas salvajes estaban cercadas por una alambrada con corrientes de alta tensión a fin de evitar las escapadas al valle. Hoy no hace falta. El gobierno japonés respeta las costumbres de los aborígenes; desarma a las tribus que se someten, sin perjuicio de prestarles armas para la caza que deben devolver al terminar; les facilita tierras para el cultivo, aperos de labranza, enseñanza práctica y guía científica para las siembras. 89 dispensarios públicos y profusión de puestos médicos para que vayan acostumbrándose a las prácticas de la vida civilizada. Higiene y escuelas disseminadas por toda la isla en edificios modernos saturados de luz y alegría; 132 escuelas primarias con 26.000 niños que hablan japonés y 151 con 235.000 que no lo hablan; 24 escuelas secundarias entre las cuales 4 técnicas accesibles a todos sin excepción. De los 5.000 alumnos de estas últimas más de la mitad formosanos.

La enseñanza solo es obligatoria para los niños japoneses. El gobierno no ha querido forzar en lo más mínimo la voluntad de los nativos (4.000.000) pero ha multiplicado los institutos de cultura, higiene y medicina a fin de atraerlos por persuasión y mediante el ejemplo. El número de analfabetos ha sido reducido extraordinariamente.

Al comenzar la colonización abordó el problema del opio: en 1900 había alrededor de 200.000 opiomanos. Hoy son contados. Para la población agrícola existen 3 grandes escuelas de agricultura con estaciones experimentales adecuadas en todas las zonas. La enseñanza, teórica y práctica.

Se ha construido más de 10.000 kilómetros de carreteras modernas, más de 1.000 kilómetros de ferrocarriles al estilo de la metrópoli y 2.200 kilómetros de vía estrecha, trenes a los altos pinto-reseos como el de 64 km. al monte Arisan.

La propiedad de antiguo en pequeñas parcelas ha sido respetada. Entre las obras de irrigación, en el centro de la isla, figura la de Taishu que fertiliza 1.452 kilómetros cuadrados de tierra habitada por 400.000 habitantes. El costo ha sido de 54 millones de yens.

La isla es un conjunto de crestas espadadas, bosques frondosos y valles florecientes y fértiles. La producción general ha aumentado en una proporción de 1 a 10 a partir de la anexión. De Taiwan es el famoso Te Uulong cuya producción alcanza a 10 millones de kilos, 400 mil toneladas de arroz; el azúcar que representa el 90 o/o del consumo del Japón; plátanos, piñas, patatas; de la pesca viven 120.000 indígenas; ganados, aunque no abundantes, y produce sobre todo el alcanfor que representa el 85 o/o del consumo mundial.

### Sastrería Japonesa

Fundada en el año 1916

de S. Katayama

PIEDRAS 572

U. T. 33-5452

### KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

Sociedad de Fomento de Cultura Internacional

TOKIO — JAPON

Agente en Buenos Aires: G. Yoshio Shinya

Facilita gratuitamente toda clase de informaciones culturales relacionadas con el Japón. Atiende personalmente todos los días hábiles, menos sábados de 15 a 18 horas en la secretaría del Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Museo Social Argentino, Viamonte 1435.

# La Marina Mercante Japonesa

El Japón, país isleño como Gran Bretaña, tuvo desde antaño la necesidad de valerse de medios de comunicaciones marítimas para el tráfico interno e internacional, aunque escaso este último hasta hace poco, por razones de su política de aislamiento en que ha vivido. Al abrir sus puertos al comercio internacional, comprendió inmediatamente la conveniencia de organizar una marina mercante adecuada a su situación, y contando, felizmente, con elementos útiles y adiestrados en la numerosa población costanera dedicada a la pesca y acostumbrada al mar, buenos puertos para mayor comodidad, tuvo rápido desarrollo la creación de grandes empresas, que son hoy los principales del mundo. Fué favorecido su progreso por la evolución industrial del país, que significa la expansión comercial.

La historia de la marina mercante del Japón, que es el tercero del mundo, cuyo conocimiento puede interesar a la Argentina, que ha estudiado la creación de la suya propia, pues no ha sido fácil su desenvolvimiento frente a la competencia de otras naciones más adelantadas que, directa o indirectamente, han puesto trabas en forma múlti-

ple, demandando paciente lucha que fué larga y costosa.

De los 66.000.000 de toneladas de barcos mercantes que se registran en todo el mundo, pertenecen a la bandera japonesa 4.216.000 toneladas, y sus buques recorren hoy todos los mares del globo. Costoso como es su mantenimiento, construcciones y reparos, el Japón obtiene anualmente una ganancia neta con su marina mercante que pasan de 300 millones de yens.

Pero, la situación de la marina mercante japonesa tiene, fuera de su posición numérica al lado de las otras mayores, una característica especial respecto a su progreso constante, cuando disminuyen su actividad las otras. Los siguientes datos son sugerentes: (Informaciones extractadas del "Anuario Estadístico de la Liga de las Naciones").

## MOVIMIENTO DE LA MARINA MERCANTE MUNDIAL

En toneladas	
	1928      1936
Total del mundo . . . . .	66.954.000    65.064.000
Gran Bretaña . . . . .	19.875.000    17.285.000
Estados Unidos . . . . .	14.538.000    12.475.000
Japón . . . . .	4.140.000     4.216.000

## ENTRADAS DE BUQUES DE ULTRAMAR

	(En toneladas)	
	1938	1936
Gran Bretaña . . . . .	91.015.000	88.767.000
Japón . . . . .	52.272.000	73.215.000
Estados Unidos . . . . .	80.208.000	64.612.000
Francia . . . . .	53.971.000	53.472.000
Alemania . . . . .	31.802.000	25.750.000 (1935)
Italia . . . . .	20.470.000	18.451.000

Con estas cifras, los entendidos pueden sacar la conclusión que corresponde para explicar su desenvolvimiento.

Además, todo el que ha viajado en los barcos nipones habla con elocuencia sobre la limpieza de los buques, el servicio esmerado y la cortesía de los oficiales, etc., cosas todas que favorecen su triunfo en la concurrencia internacional. — (De "La Razón").

## MOVIMIENTO MIGRATORIO DE JAPONESES EN LA ARGENTINA

Durante el año 1937 llegaron entre pasajeros e inmigrantes 837 japoneses y salieron 559 dejando un saldo de 278.

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p><b>T. NISHIZAWA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469-2981</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cia. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>S. YAMADA y Cia.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE</b> <b>Marca KANEBO</b> PARA TEJIDOS RIVADAVIA 1210 (4o. piso) U. T. 38 - 3239</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA</b> K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p><b>SADAO HATTORI</b> IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>IIDA y Cia. Ltda.</b> (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p><b>S. KAISEKI</b> Representante de <b>DAIDO BOEKI KAISHA LTD.</b> Kobe, Japón Importación y Exportación VENEZUELA 1034 - BUENOS AIRES U. T. 38 - Mayo 7286</p>
<p><b>KATSUDA y Cia.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p><b>N. HARA y Cia.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p><b>S. ANDO y Cia.</b> Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296</p>	<p><b>NAOJI SAITO</b> BUENOS AIRES BOEKI ASSENJO ROQUE S. PEÑA 616 - 7o PISO U. T. 33-1452</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p><b>GUIA JAPONFSA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-0978</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 0251</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 499 3er. Piso Esq. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa <b>"YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31-7846</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p><b>N. IKEDA</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-8189</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 U. T. 33-8256</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993. COMPAÑIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2o Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>